

1. 教材作成の意図

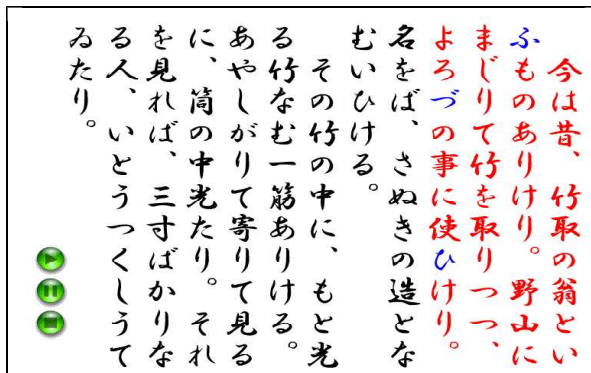
多くの生徒は古典文学の学習を難しいものと考えてしまうようである。

その理由としてまず挙げられるのが、現代語とは異なった言語が使われている事実である。つまり、言葉の意味が理解しにくいということが最大の理由であると思われる。それは当時の文化形態が現代のそれと大きく隔るものであるために、現代では存在しない言葉が多数存在することとに起因するものと思われる。このように言語も文化も異なる文学作品を学習することは、生徒にとっては新たな外国語を学ぶに等しいのであるといえよう。

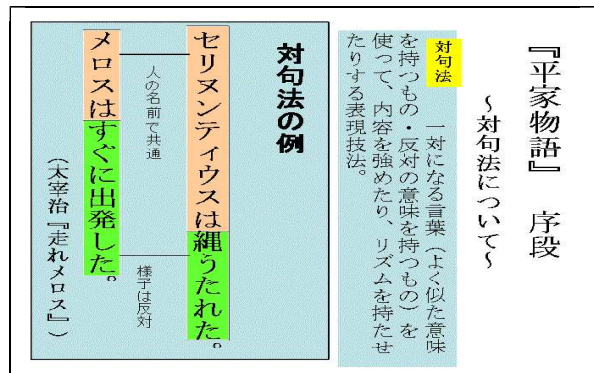
また、第2の理由として考えられるのが、現代社会と遠く離れた「過去のおはなし」であるために、学習の意義をつかめず、なぜいまさら古典を学習しなければならないのかという疑問を抱いたまま、学習を行うため次第に興味・関心が遠のいてしまうという点である。

表記上の難解さに翻弄され、作品の核心に気づかないまま学習するのは、生徒にとって大きな損失となる、このような理由により、中学校国語教科における古典学習の基本となる「朗読」「口語訳」「語句」「文法」「歴史的仮名遣い」を取り扱った提示用教材を開発した。基本的事項を短時間に視聴覚等の五感に迫る教材を有効に活用することによって、限られた時間の中で、真に大切な内容理解に学習時間を費やすことができるものとする。

2. 教材画面の紹介（一部抜粋）



【図1】朗読（教材『竹取物語』より）
音声に合わせて文字が変色する。青字は歴史的仮名遣いを表す。



【図2】対句法（『平家物語』より）
パワーポイントで作成されているために、クリックする毎に説明がなされていく。

3. 授業実践（沖縄市立安慶田中学校1年4組）

平成16年11月17日『竹取物語』冒頭文編を用いて授業を行う。（右写真）各々の生徒が自分のペースで古典の基礎を学ぶことができた。授業では提示教材だけではなく、ドリル形式の教材にも取り組んで学習を深めた。



4. 今後の展望

朗読教材のラインナップの充実。

複数の教材で活用できる「文法」「表現技法」教材の作成

